

令和7年度 第3回 八尾市史跡保存活用審議会

日時：令和7年12月21日（日）10時30分～12時00分

場所：八尾市役所本館6階 研修室

【出席者】

（委員）菱田哲郎：京都府立大学 文学部 教授（会長）

瀧浪貞子：京都女子大学 名誉教授（副会長）

吉川真司：京都大学 名誉教授

網 伸也：近畿大学 文芸学部 教授

長友朋子：立命館大学 文学部 教授

清野孝之：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 企画調整部長

中野眞也：曙川東小学校区まちづくり協議会

（オブザーバー）大阪府教育庁文化財保護課文化財企画グループ 木村啓章総括主査、大澤嶺技師

（事務局）観光・文化財課 西澤課長、藤井課長補佐、河村副主査

（傍聴）0名

【欠席委員】

箱崎和久：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 都城発掘調査部長

【次第】

1 開会挨拶（観光・文化財課長補佐）

2 議事内容

案件1：史跡整備事業について

- ・ 本体整備工事の変更
- ・ ガイダンス施設建築設計
- ・ ガイダンス施設展示基本設計・素案
- ・ 瓦だまりの整備の再検討

【事務局報告事項】

〔本体整備工事の変更〕

（工事進捗）

- ・ 9月に施工業者と契約締結、11月工事着手。復元塔基壇の基礎の型枠を設置。
- ・ 中野委員協力のもと、10月26日に地元向け説明会を実施。工事概要と4か年工事の流れを説明。

（工事の変更点）

- ・ 史跡外周部の真砂土舗装と斜面の見切り部分が脆弱であることが判明。工事担当課（土木建築課）より、直径12cmの縁石設置の提案。
- ・ 周辺住宅への個別説明において意見聴取。工事担当課と協議し、以下、検討事項。
 - ① 西側四阿を12m東に移動。
 - ② 当初四阿があったところに植栽を設置。
 - ③ 四阿の移動に伴い、北側の園路を移動。
 - ④ 目隠しフェンス（遮音パネル）をより目隠し機能と遮音性の高いものへ変更。北側新設フェンスを西側と同様の仕様にする。

【委員質疑・意見】

（フェンスについて）

- ・台風等で倒壊が心配されますが、配慮していますか。
- 深い基礎を入れており、倒壊の恐れはないと工事担当課に確認しています。
- ・フェンスの高さはどのくらいありますか。また、どのような色ですか。
- 西側に高さ 1.8mのフェンスを設置しており、北側も同様の高さに合わせます。色はダークブラウンです。

（防犯等について）

- ・外から園内が見えるようになっていませんか。内は真っ暗や陰にならないようになっていませんか。フェンスの足元が見えるようにしておくと防犯によいと思います。
- 西側や北側は目隠しフェンスを設置しますが、東側の道路や南側から園内を見渡せる仕様になっています。
- ・フェンスで囲う部分（史跡地内）に入ることができる時間について知りたいです。閉園時に内に入られたりしませんか。
- 文化財施設に合わせて9時から 17 時まで開けています。外からの侵入を想定した高さに設定していませんので、1.8m以上は考えていません。周囲の高さに前後はありますが、登って入ることはできます。

【事務局報告事項】

〔ガイダンス施設建築設計〕

（建築設計の修正点）

- ・5月 15 日に大阪万博で実施した古代衣装着装体験が好評であったため、万博レガシーとして、建物南側に衣装展示スペースと試着室を設けた。衣装を着て史跡公園に向かってもらうことも検討している。
- ・屋内外で古代瓦の展示を行う。屋内では瓦の葺き方を段階的に説明する展示、屋外では、建物東側の車椅子スロープ部分で切妻屋根の展示を検討。

（屋外瓦展示）

- ・幅 9.8mの範囲に3種類の軒丸・軒平瓦のセット（①由義寺塔の主体をなす瓦、②河内系、③摂津系）の展示を検討。
- ・各セットの展示幅を軒丸瓦出土点数の割合から算出。
- ・妻部分は、海龍王寺西金堂の切妻屋根を参考に、軒平瓦と平瓦を伏せる仕様とした。
- ・大棟の両端に鬼瓦の設置を検討。南側に南都七大寺式、北側は摂津系。

【委員質疑・意見】

（建築設計について）

- ・女子トイレの個数や広さなど、男女比率の変更はできますか。
- （委員）本設計に反映できなくても、由義寺跡シンポジウムで議論してもらいたい内容です。
- ・建物南側の庇（下屋）に朱が塗られていますが、どのような仕様ですか。屋根は本瓦葺きで瓦を下から見上げる構造ですか。また、屋外瓦展示の垂木先に金具を付けますか。
- 垂木先風の部材を朱色にしていますが、先は明らかでないので金具はつけません。建物の一部を本瓦葺きにして、JR志紀駅から来られた人が視認できるようにしています。

- ・史跡公園に訪れた人が見学施設だと視認できるようになっていますか。史跡公園とガイダンス施設の間に空地を挟んでいるため視認されない可能性があります。建物北、東面を活用してアピールできないでしょうか。商業施設側から訪れる人は、塔基壇と模型をみて満足して帰ってしまう可能性があります。見学施設とわかるような工夫が必要でしょう。現状では倉庫のように見えてしまうので、地面にサインを設けて案内してはどうでしょうか。
- ・史跡公園側から建物が見える状況であれば、建物名称や塔のシルエットを示しておくとういいます。

→既存の遊歩道を活用して施設へ導く案内をします。建物が視認できるように検討します。

- ・ガイダンス施設の北側に何か建物が建つのでしょうか。

→現在、民有地で駐車場として使われています。将来的に何か建つ可能性があります。

（古代衣装展示について）

- ・万博での様子を写真で残していますか。ガイダンス施設で示すことで、市民へのアピールになります。

→大屋根リング上で撮影したものが、その時の写真を活用したいと考えています。

- ・衣装は、どのくらいの頻度で洗濯していますか。

→イベント毎に行っています。

- ・衣装は何着ありますか。常にストックされていますか。

→男性、女性、子ども用含め、20着以上あり、イベントに合わせて出せるようにしています。補助金（リビングヒストリー）で作成しています。

（屋外瓦展示について）

- ・どのような建物をイメージしていますか。高さはどのくらいありますか。

→塔以外の建物は見つからないため、特定の建物を復元したものでなく、瓦の種類や葺き方を見てもらうことを目的とした造作になります。高さは2.5m程あります。

- ・大人の目線に瓦があると頭を打ちませんか。

→（委員）両側の小口の足元に柵を設けるなどして、注意喚起するのはどうでしょうか。業者と安全対策について協議してください。

- ・9.8mが意味のある数字だと面白いと思いました。

- ・端で平瓦を伏せるのはあまり聞いたことがありませんが、そのような事例はありますか。

→（委員）海龍王寺のほかに元興寺禅室でもみられます。事務局より、海龍王寺西金堂の切妻屋根を採用したいと事前に相談を受けました。道鏡が法王に任ぜられる契機となった寺院を参考にするのはよいと思いました。

- ・何故、瓦が伏せてあるのか、何を根拠に復元したのかをわかるように展示で説明するとよいでしょう。

- ・「河内系」という呼称はよいのでしょうか。青谷廃寺式の瓦は河内国が管理していた瓦という印象があります。河内系、摂津系とぼやっとしている気はしますがいかがでしょうか。もう少し踏み込んで表現すると、河内の国分が管理していた瓦と言えるのではないのでしょうか。ここで呼称を固めると、広く発信していくことになります。担当者がどこまでもっていくかによるところもあります。

→（委員）〇〇式とすると、型式名を定義付けすることになります。展示では、河内系と摂津系と

いう言葉を入れざるを得ないので、どのように分布する瓦か解説文で示す必要があります。

- ・河内系、摂津系と呼んでいる瓦はどのようなものを解説し、分布範囲を示す必要があります。河内識、摂津識が造営に関与した証拠がわかるように示しておくと言説力が増すでしょう。そして、展示比率は、出土点数から割り出していると解説してはどうでしょうか。
- ・出土割合に合わせて展示するのはよいと思いますが、「河内系」、「摂津系」とあって「由義寺」と定義付けしているのは何故ですか。

→(委員) 河内系や摂津系も由義寺跡から出土しているので、本来、由義寺ですが、その中で「由義寺」としている瓦を丁寧に説明する必要があります。この瓦については、由義寺の瓦工房において、(西大寺の系譜をひく) 独自の範が造られたと考えられるもので、恐らく西大寺の工人も携わっていたのでしょう。お寺がどのようにして建てられたのかを説明するとよいでしょう。しかしながら、名称については、文献史学から検討する必要があり、言葉の使い方を確認しながら定めてほしいと思います。

- ・屋外展示でも瓦の説明(解説)をしますか。

→瓦の違いが理解できないと思うので、説明が必要と考えています。

- ・3種類の瓦の違いについて、子ども向けのクイズとして活用できないでしょうか。その答え合わせを屋内の展示でできればよいでしょう。

【事務局報告事項】

[ガイダンス施設展示基本設計・素案]

(展示設計業者の選定、提案内容の検討)

- ・10月17日に展示設計業者の入札を実施。株式会社フジヤに決定。業者の実績紹介。
- ・今年度基本設計、次年度実施設計。今年度は展示室の素案を検討、次年度に詳細検討。
- ・提案内容の概略を説明。VR、ARを活用し、展示室だけでなく、実寸大の塔の復元を検討。

【委員質疑・意見】

(提案内容について)

- ・提案資料に「二重基壇」などと、事実誤認や表記誤りがあります。事務局が業者に対して仕様を明確にするとともに、用語確認を行い、きっちりとした案を審議会で諮問してください。
- ・都との関係や河内周辺との繋がりがわかるような内容にしてほしいです。
- ・奈良と勘違いしないようなものにしてほしいです。
- ・孝謙天皇時代についても触れるべきでしょう。
- ・孝謙天皇(称徳天皇)が智識寺で大仏を見たことも寺院建立の契機の一つですので、由義寺跡(ガイダンス施設)を起点として、周辺の文化財周遊ができる仕組みをつくってください。
- ・称徳天皇に重きを置きすぎている印象があります。明確でないことが多いですが、八尾市ならではの(ゆかりの)人物である道鏡について触れる必要があります。
- ・道鏡のキャラクターを作ってはどうか。既存イベントでキャラクターがいまませんでしたか。なければ公式で作ってはどうか。歴史は人がつくるものですので、人物をもつてくることは大事だと思います。

→道鏡の衣装も作成しており、展示導入部分で遺跡の説明に合わせて、称徳天皇・道鏡について触れたいと考えています。

- ・多言語対応はどこまで拘りますか。日本語に限定されますか。英語を入れるなら、中国語、韓国

語を入れてはどうでしょうか。

(映像コーナーについて)

- ・映像を先にもってきたほうが理解しやすいでしょう。座って見られる方もいます。椅子を用意できるのであれば、5分程度の内容を見てもらえるような仕組みを作ってほしいです。
- ・寺院建立の契機や周辺寺院（遺跡）に触れてあげると理解しやすいと思います。文字が多いと理解しにくいと思います。
- ・系図についても触れておく必要があります。

→映像コーナーは、事務室や古代衣装の配置、展示導線から現在の位置で考えています。限られたスペースですので、映像の中で、系図、周辺寺院との関係に触れたいと考えています。映像コーナーとARを活用して由義寺全体の理解を深めてもらいたいです。

(その他)

- ・東大阪市の河内寺廃寺では、現地でARを活用されています。大阪市難波宮では維持費はさほどかからないと聞いています。
- ・姉妹都市が宇佐市、和気町ですが、施設開館を機に下野市と結ぶことは検討できませんか。観光周遊に繋がります。

→検討します。

【事務局報告事項】

[瓦だまりの整備の再検討]

- ・文化庁に瓦だまり遺構の復元について、実施設計の内容を報告。
- ・補助対象事業にあたるため、審議会で復元に至った経緯を整理するよう指導を受ける。
- ・今回、過去の審議会で議論をまとめた（令和4年度の整備基本計画に記載なし、令和5年度第3回審議会で基本設計の遺構整備で触れる）。
- ・遺構復元を市民参画イベントで行うことに問題はなく、関係補助金を活用して実施するよう指導を受ける。
- ・復元整備スケジュールの確認。令和10年度に市民参画イベントの実施を予定。

【委員質疑・意見】

- ・使用する瓦を取り上げていますか。

→取り上げずに、現地保存しています。

- ・その場合、復元に使用する瓦は、塔基壇周辺から見つかったものになります。考古資料なので、整理・分析し、報告書を刊行する必要があります。報告資料を活用するのはよくないので、使用する瓦を明確にしなければなりません。報告書刊行と整備スケジュールを合わせておく必要があるのではないのでしょうか。

→遺構復元にどの瓦を使用したかを明確にするとともに、整備報告書にも明記します。今後、令和9年度に使用瓦の選定、11年度に整備報告書および調査報告書の刊行を予定しています。

- ・武蔵国分寺の遺構復元のように、表採資料で賄うことは可能ですか。報告書刊行にむけた整理作業のなかで、瓦だまりで出土しているものに合わせた種類を選ぶことになります。報告書の刊行というよりも、どの瓦を使ったのかをデータとして出しておけばよいでしょう。復元に出す以上、出していたものに近い種類で、使う瓦は表採資料で学術的に報告する必要のないものを活用しているということが担保されていれば、この事業が進むのではないのでしょうか。

→資料の位置付けを明確にします。

- ・瓦だまりの中に凝灰岩の破片がかなり入っていることも意味があると思いますが、どのように考え、表現される予定ですか。

→遺構の評価につながるものと考えており、瓦と同様に復元したいと考えています。ただ、劣化が予想されますので、代替のもので検討しています。

- ・道路計画がある場所ですので、この遺構復元で警鐘を鳴らすことはできますが、現在、計画はどうなっていますか。

→関係課から問い合わせはありますが、明確に計画が進んでいるとは聞いていません。

[その他報告事項]

- ・検討課題が多いため、審議会の開催回数を年3から4回に変更する。
- ・10月20日～24日、調査担当者が奈良文化財研究所主催文化財担当者専門研修「保存科学（遺構・石造文化財）過程」を受講。凝灰岩切石の劣化抑制や適切な保管方法、薬剤含侵処理手法を習得。多孔質材の特性を踏まえた展示方法について指導を受ける。
- ・1月10日、由義寺跡シンポジウム2025の案内。
- ・七重塔模型のあり方について、箱崎委員と調整して次回報告。
- ・次回3月19日。

観光・文化財課課長挨拶にて閉会